

## 冬將軍が消える

気象学への招待

二〇〇三年一〇月の世界の平均気温が観測史上最高となったとのニュースが流れた。一九九八年は、地球全体の一年間の平均気温が記録をとり始めてから最高となり、一九九〇年からの一〇年は二〇世紀で最も気温の高い一〇年となり、その二〇世紀は「最も高温の世紀」となった。二一世紀にはいつでも地球温暖化によるとみられる気温の急上昇が止まらず、二〇〇二年も歴代二位となった。

このままでいけば今世紀末には、二酸化炭素気体が二・五倍に増加して、地球の平均気温が、四℃近く上昇すると計算されている。たった一℃でも大変なことなのに、さらに二度も上がれば、恐らく三〇〇万年前に人類が出現して以来の高温の時代となるほどの大変な温度上昇となる。

その裏づけとなる過去の二酸化炭素と気温の関係をしめす証拠が、南極大陸の厚い氷床に隠されていた。ボーリングで掘りだれた深さ二五〇メートルまでの氷柱には、大陸に降り積もった雪が氷となるときに、当時の空気をなかに閉じ込めた気泡が無数に含まれており、まさに「氷の化石」である。この気泡の空気を調べれば、三五万年まえから現在までの間の気温と二酸化炭素の変化を同時に知

ることができる

無理やり深い眠りから覚まさせられた「氷の化石」には、気温と二酸化炭素がいつしよのカーブで変化し、一〇万年周期で氷河期と間氷期が繰り返されていた証拠が見事に残っていた。その地球温暖化の探索の最前線が、皮肉にも南極大陸上の標高三八一〇メートルドームふじ基地である。さらに八〇万年前までの気候の変化と二酸化炭素の関係を調べる計画を進められている。地球の温暖化の行方が、皮肉にも平均気温がマイナス五四度、最低気温がマイナス七九・七度にもなる、吐く息も凍る極寒の世界で続けられている。

温暖化の対極で登場するのが「冬將軍」である。「モスクワに突入したナポレオンが厳冬と積雪に悩まされた史実に因む冬の異名、冬の厳しさを擬人化したもの」とされ、自然の厳しさが大きな幻の影となつて怪物のように振る舞う「將軍」に形容された。しかしナポレオン戦争をロシア側から見たトルストイの「戦争と平和」にも冬將軍という言葉はない。ロシアではそれに相当する言葉として登場するのが白い髭をはやした「いじわるマロース爺さん」である。厳しい寒さや雪や吹雪をもたらす強大な力への恐怖と畏敬から、怪物マロースに厳しい寒むさを擬人化させたもので冬將軍は見当たらない。

ナポレオンは本当に冬將軍に敗れたのであろうか？確かにたしかにナポレオンがモスクワ遠征に遠征した一八二二年は、一月

から翌年の二月にかけての厳しい冬の寒さは尋常ではなかった。当時、ヨーロッパは小氷期と呼ばれている歴史的な低温期の最中で、その年はさらに厳しい冬が重なった。モスクワの資料が手にはいらなかったので、気象観測では定評のあるドイツのベルリンで見ると、一二月の平均気温が平年より七・九度も低いマイナス七・三度となり未曾有の寒さは年を明けても続いた。

この年の厳しい寒さは遠く日本でも厳しく、諏訪湖の結氷の記録である諏訪神社に残る五〇〇年にもわたる御神渡りの記録からも伺える。御神渡りとは厳しい寒さで諏訪湖が結氷して湖面にジグザグの水丘列が走る現象で、この年は二月二六日と異例の早さで起きり、以来、この記録が破られていないほどの異常さであった。大阪の淀川を凍らせた、東京・両国の川に氷が浮かぶこの年の冬は尋常の寒さではなく、「ナポレオン遠征の年の冬」は、まさに百年に一度あるか無いかの異常寒冬であった。

しかしながら、ナポレオン軍は歴史的な厳しい冬の前にすでに敗走していたのである。両角良彦の『一八一二年の雪モスクワからの敗走』によれば、ナポレオンのモスクワ遠征は一八一二年の初夏、六月二四日、四二万人の軍隊でロシア国境を越えたところから始まった。東京から青森までの距離の遠征をへて九月にモスクワに入城したときにはすでに兵力が三分の一に激減していた。さら

る。

(二〇〇四年一月)

に一〇月一三日に降った初雪がすべてだった。雪はすぐ解けたが全軍が浮き足立って、翌日には退却を決めた。退却戦は悲惨さが常であり一一月のはじめの寒波で大きな打撃を受けたナポレオン軍は、「秋の陽はつるべ落とし」で日が短くなるなか、波状的に襲来する寒波とコサックの追撃を受けて総崩れとなり四散していった。一二月の半ば、寒波と追っ手を逃れて出発点に戻れたナポレオン軍はわずか五〇〇〇人、およそ一〇〇分の一まで激減、壊滅的な敗北を被っていた。

モスクワ遠征のナポレオン軍は、「一八一二年の歴史的な寒い冬」の襲来を待たずして、すでに大敗して敗走していたのである。ロシアの初冬の寒波で大きな打撃を受けて敗走を重ね、歴史的な厳しい冬の先駆けにとどめを刺されたのが史実である。不敗を誇ったナポレオン軍が、戦略のまずさとロシアの厳しい自然の前にしての敗退が、あたかも、「冬の厳寒」という自然という軍隊に敗れ去ったことに、冬將軍に敗れたと誰かが呼んだのであろう。日本語で「冬將軍」という言葉をいつから使い始めたのかまだ定かではない。

地球温暖化の探査のため、深い眠りから覚まさせられた氷の化石から未来を予測すると、地球の高温化でいずれ「冬將軍」という言葉も死語となるだろ。「氷の化石」、「戦争と平和」と「ナポレオンと冬將軍」を対比させながらも「冬將軍」の言葉の響きに限りない郷愁と愛着を感じているのも事実であ